

令和7年度 五所川原地域住民懇談会② 案件・回答

開催日時：令和7年10月28日（火） 18時00分～19時50分

開催場所：コミュニティセンター栄

参加住民：12名

出席議員：和田祐治議員、伊藤雅輝議員、秋田幸保議員、藤森真悦議員、
山田善治議員

懇談テーマ：

未来へつなぎたい・守りたい地域の強みについて～2040年に向かって～

【今後の人団推移とまちづくりの理念について説明】（ふるさと未来戦略課長）

【意見等】

Q) 五所川原市の財政は今後どう運営されていくのか。栄地区には有名なものがなく、コミュニティくらいしか強みがない。

A) 副市長：（財政の運営について）人口減少は確実に進み、財政も厳しくなっていきます。ないもの求めていくのは困難であることを受け止めながら、自分事として地域を考えていくことが非常に大事なこととなります。住民と市が、それぞれできることを一緒に考えていくことが大事だと思っています。

（地域の強みについて）コミュニティの維持はどの地区も困難としているものであり、「何もない地区」ではなく、コミュニティ維持ができるいると自分たちで言えることが、栄地区の強みだと思っています。

Q) 教育の分野で、小中学校を今後どうしていくか、具体的な案を持ってやっていくべきだと思う。

A) 教育長：学校再編については、授業で子どもたちが不利益を受けるかどうかで判断していきたいと思っています。

小学校においては、複式学級（※1）の解消が大きな課題となっています。複式学級では教員が複数学年を行き来しながら授業を行わなければならず、直接授業を受けられる時間が少なくなってしまいます。

中学校においては、教員定数の基準（県で決定）が学級数に応じて決められています。それに伴い、学級数が少ないところでは教員の不足により、専門ではない教科を指導する免許外教科担任（※2）が出る可能性があります。

令和8年度に市浦小・中学校の併置校の設置が完了した段階で、次の

「優先検討校」の検討に着手することになりますが、小学校は複式学級があるところ、中学校は学級数が少ないとところから、子どもたちが不利益を被る可能性があるとして、優先検討校の検討対象になっていくと思われます。（注：検討対象をどこにするかについては、現在は決まっていない。）

その検討結果を元に、様々な方々からご意見を聞きながら進めていければと思っています。

（※1）複式学級…2つ以上の学年で構成される学級。1学級の中で所属する学年が異なる=授業内容が異なっている状態のため、教員は複数学年を行き来しながら授業をする必要がある。（文科省等HPより）

（※2）免許外教科担任制度…中学校、義務教育学校の後期課程、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の中学校部若しくは高等部において、当該学校の普通免許状を有する教員に他の教科を担当させることを特別に認める制度。（文科省HPより）

Q) まちづくりの理念とは何なのか。

A) 市長：2040年は65歳以上の方が最も多くなる年ということで、五所川原市のみならず全国的に、その2040年を見据えて何ができるかを考え土台をつくることが求められています。

市では総合計画を策定するにあたって、財政運営の困難や人口減少に対応できるよう目標を絞り込み、「福祉」「経済」「教育」「まちづくり」の4つの基本目標を設定しています。

生活の上で最も重要である福祉の充実を一つめに置き、経済面では観光に力をいれていきます。教育においては、未来を担う子どもたちが帰属意識を持てるよう、地域で守るべきものを守ることを重視していきます。そして、例えば「ごしょくる」等による交通の利便性の向上など、安全に生活ができるまちづくりにも取り組んでいきます。

この4つの目標を元に、人口減少、高齢化の中でも支え合える地域の構築を目指しています。

意見）保育園にプラスして若者を呼び寄せるような仕組み、工業団地を活かせる工業系の専門学校、75歳まで働く仕組み、店の跡継ぎをサポートできるような窓口などがほしい。人を大事にする市政をしてもらいたい。

Q) 地区の排水路の整備が進んでいない。

A) 副市長：水路整備は下流域から計画的に実施しており、まず幹線から整備を行

っているため、どうしても時間はかかってしまいます。できるだけ早く進めるようにします。

Q) 国勢調査で、なかなか調査用紙が届かなかった。また、来たのが町外の調査員で、不便を感じた。

A) ふるさと未来戦略課長：次回の国勢調査に向けて、いただいたご意見を参考にして指導を行い、また、事前に人員を把握してから差配するようにします。

Q) 栄小の通学路である、薬王堂から交差点を右折するまでの西側歩道が、冬期に積雪で歩行困難である。当該箇所の歩道改良等を、栄地区住民協議会を通じて要望していたが、その進捗状況について聞きたい。

A) 副市長：早期完成を目指して進めてはいるものの、土地所有者との用地取得の交渉が上手くいっておらず、難航してしまっています。相手がいるものであるため、協議しながら進めていきたいと思います。

Q) 稲実団地から旧木村酒店手前までの県道に歩道を設置してほしい。

A) 副市長：市からもできるだけ早く進めてもらえるよう県に要望しており、県からも重点地区として進めるという回答をいただいている。

Q) 広田榎森地区より下流域の排水路の工事をしてほしい。

Q) 国道の広田交差点ローソンから稻実交差点タイヤセンター泉谷までの側溝の泥上げをしてほしい。

A) 市長：今のご意見を含めて持ち帰り、回答できるものは後日回答します。

要望) 高齢者サロン活動に対し、集まる場所として空き家を活用するなど、市からの支援がほしい。

要望) 町内会長が集まって、情報共有をしたり互いの状況を知ったりできるような場を、市で率先して作ってほしい。

要望) 菊ヶ丘公園方面から弘南バス五所川原営業所側へ右折するとき、雪で通りにくく、保育園近くで渋滞している。当該箇所の除雪をスピード一に実施してほしい。

要望) 町内会の作り方や広報配布の仕方などについてのマニュアルがほしい。

Q) 移動スーパーは、五所川原地域にもあったほうがいいと思う。

そろそろ退職で、皆さんのためにできることがないかと思い、移動スーパーのチラシを見てとくし丸に電話をしてみたところ、会社が東京にあるので、東京に行かなければならぬことだった。

現在五所川原ではスーパーストアしか登録されていないので、そこから物を集めて売るとなると、金木地域に売るならいいが、五所川原地域で売るには遠い。また、ヨーカドーのもの、ロピアのものがほしい人も多い。

移動スーパーを市でも後押ししてほしい。とくし丸の会社と直接話さなければならないとなると、話をするにも遠い。

A) 市長：最初はイトヨーカドーと契約していました。私の方でとくし丸と話をして、それぞれのスーパーの社長と直接会って相談し、紆余曲折あって、スーパーストアだけが「検討する」という状態で2年ほど経っています。そこから五所川原と中泊の方がやりたいと申し出て、現在はスーパーストアからものを供給することになっています。

運転手の確保ができずに難航した経緯もあるため、めげずにもう一度、五所川原のスーパーに、興味のある方がいるのでとくし丸と契約できないか、話をしてみます。

Q) 集会所の利用料と同額の費用を、管理維持費として取ることはできるのか。

A) 副市長：集会所の料金は、営利目的でない利用に対しては取ることができません。ただし、実費（例：座布団を使用したときのクリーニング代など）であれば取ることができます。

Q) ここ数年で新設された町内会の数と、設立の際に市からどのような助言を行っているか伺いたい。

A) 総務課長：持ち帰って確認の上お答えします。

Q) 弘前市では、市職員を町内会の担当に配置していると聞いた。五所川原市でそういうやり方を検討する予定はあるか。

A) 副市長：市職員の町内会担当への配置については、当市ではできないという判断をしています。担当を付けるだけであれば簡単ですが、町内で話し合いながら考えをまとめて何か行動をするとなれば、市の職員では対応しきれません。市民と行政とが、それぞれの立場で自分にできることを考えることが重要だと思っていますので、町内会についてもまずは自分たちで運営していただくことを基本としています。

Q) 芦野公園の浮き橋をどうするのか。

A) 市長：浮き橋については撤去で決めています。